

調査・実践報告

中国甘肅省岷県花儿会調査報告2011年  
— 迭蔵河における花儿会 —  
Investigation Report of Taomin Hua'er, 2011  
— The Festival of the Song of the Dié Cáng Riverbank —

板垣俊一\*      戚 曉萍\*\*      張 蠡\*\*\*  
ITAGAKI Shun'ichi    QI xiǎo píng    ZHANG lí

キーワード：洮岷花儿    Taomin Hua'er    歌垣    対歌    民間歌謡

## 1 調査目的と調査方法

現在、甘肅省を中心として中国西北部に広く歌われている花儿は、中国国家級非物質文化遺産に指定されている。そのなかでも比較的素朴な甘肅省南部の岷県地方に歌われている洮岷花儿は、即興的な歌の掛け合いとして、日本を含むいわゆる照葉樹林帯に広く見られる歌謡文化を現代に伝えるものとして貴重である。岷県地方には中国明代の遺跡も顕著で、かつて辺境防備のために漢民族の移住が行なわれたことから、花儿を歌う習慣もまた移住にともなってこの地に伝えられ残されたと見るべきなのか、それとも中国南西部の少数民族に歌掛けの風習が広く見られることから、かつてこの地に住んでいた漢民族とは異なる古羌族の風習であったものを、この地に移住した漢民族が自分たちも参加する歌の祭りとして今日まで伝え残してきたものなのか、おおまかに言えば花儿にはこうした起源の問題がある。

ゆくゆくはこの問題の解決に向かいたいと考えているが、そのためにはまず実態として花儿とはどのような歌謡なのかを把握しなければならない。われわれが文献上で見る花儿の歌詞は、ただ詩句として提供されているため、それが掛け合いの場面でどのように歌われたのかは知り得ない。そのため、花儿を歌う目的で集まった男女の実際の対唱の現場において、調査者が対唱者の心理に影響を与えないよう配慮しながら、その対唱歌詞の始めから終わりまでを採集する必要がある。もちろん、そうして記録された歌詞は現代のもの

---

\* 新潟県立大学国際地域学部 (sitagaki@unii.ac.jp)

\*\* 甘肅省社会科学院文化研究所

\*\*\* 西安外国語大学東方言語文化学院

であって何百年間も同じであったわけではない。しかし花儿が花儿である以上、その中に花儿の本質が遺伝子のように隠れていることはないか？——その検討のためにも実際の資料が必要なのである。もちろん、そのような学術的資料であるとともに、現代における文化的価値を示す資料としても有益であるし、さらにまた今後東アジアの歌謡文化を考察するうえでの基本的な資料としても有益であると考ええる。

ちなみに、この目的に添った調査方法について簡単に述べておく。各地の花儿会には歌を歌う人、またその歌を聴く人が多く集まる。われわれはその花儿会において自発的に行なわれる男女の恋歌の対唱を、歌掛けの最初から終わりまで完結した形でまず録音することにした。映像による撮影は禁物だが音声だけの録音ならば問題がない。得られた音声は岷県地方の漢語の方言であるため、これを漢字として文字化する。その場合、普通語の発音と違っているものがあるときは末尾に注を付ける。この点、取材した音声があつた文字を持たない言語ではないことが文字化の利点になっているが、音声の要素は捨て去ることになった。また文字化にあたっては意味と無関係な歌い出しの発声（哎ー、噢ー、）なども省略した。

## 2 調査概要

例年旧暦5月17日は甘肅省岷県にある二郎山の祭礼である。2011年、その翌日2011年6月19日（旧暦5月18日）の午後、二郎山の東を流れる迭藏河（洮河の支流）河畔で花儿会が行なわれた。ここに文字化した資料は、そのとき取材した対歌の歌詞である。夕方近くだったので、対歌の末尾でもそろそろ日が沈むと歌われている。歌い手は凡例に述べる通り男性三人と女性一人であった。当日、河畔ではいくつものグループが人垣を作っていた。そのうちの一つにわれわれが近づいたとき、一人の女性に向かって二人の男性が河州花儿を熱心に歌い掛けていて、現地のひとたち数人がその歌声を録音しようと携帯電話を向けていた。男性たちが女性に熱心に歌いかけていたのは、相手が対歌のできる歌い手であることを知っていたことである。しばらくしてから洮岷花儿の旋律で対歌の口火を切ったのは女性であった。

次に、写真によって当時の状況を説明する。



写真：1



写真：2



写真：3

### 迭藏河河畔における花儿会 (2011.06.19)

写真1のように会場には輪になったいくつもの人垣ができています。左手方向が迭藏河の上流方面にあたる。写真2は対歌開始時の場面で、左側の顔にモザイクをかけた男性二人が右側の隠れて見えない女性と歌を掛け合っている。白い帽子を被った人が男A、左に並んで立っている髪の短い人が男Bである。女性は最初、白い四角な携帯電話で男性たちの歌を録音していた。また、周りの人々も歌掛けを熱心に録音していた。写真3は演唱中の歌巧者の毡匠氏である。なお、写真2の後方の山並みは二郎山の峰の一部である。

## 3 採録歌詞の考察 (調査結果に代えて)

### 1. 花儿の歌詞解釈に必要な地域文化の理解 (戚曉萍)

今回調査した花儿は、その歌い方によって地元では「阿欧怜儿」と呼ばれている。「阿欧怜儿」は岷県の地方文化を代表するものであり、歌手がその場で即興的に作詞するのが、この歌の特徴である。「阿欧怜儿」を鑑賞し、研究するには、まず地元の文化を理解することが必要である。そうでないと、歌の「美」と「妙」が結局わからずじまいで、素人の見物となりかねない。次にその例を三つあげて説明する。

#### (1) 方言の呼称

例えば人の呼称について、ここに採録した歌詞に「娃的娘娘」とあるが、「娘娘」は地元の方言では、「おば (父の姉妹)」という意味で、母親という意味ではない。また動植物の呼称についても、今回採録した歌詞にある「豹花儿马」という語句は、豹柄の毛をしている馬という意味であり、「小豆」は豌豆 (エンドウ豆) のことである。物の呼称でも、歌詞の中に出てくる「榆婁」(宋志賢氏の著書『岷县民間歌曲』には「榆约」とも書いてある)は、ものを縛るのに使う榆にれの木の皮でなった縄のことであり、また「錫鉄」は「アルミニウム」のことである。

#### (2) 歌詞の裏の意味

例えば「鎌刀就割了榆婁了, 阿么到屋里来的时候就把一只儿鞋掉了, 没有你那鞋就合窍了」(07女)という歌詞の、表面上の意味は「鎌で榆の皮を切って縄をなう。どうい

うわけか家に帰る途中で靴が一足無くなった。取り替えた靴はあなたと一緒にいた時の靴ほど履き心地がよくない」であるが、裏の意味は「あなたと付き合っているうちに、わけのわからない原因で別れた。その後ほかの人と付き合ってみたけれども、あなたとの関係ほど釣り合っていない」ということである。

### (3) 歌い始めに置く句とそれに続く意味のある句との呼応

「阿欧怜儿」の歌詞は韻を踏むという特徴もある。歌い出しの句は、韻を定め、相手の興味関心をひく働きをする。優れた歌手なら、歌い始めの句は前後の歌詞と呼応させて、まとまった意味の歌詞を作ることができる。例えば、「黄杨木梳梳簪簪，将是人穷没打扮，来得早着到你们伙儿里我没敢钻，害怕给你丧面面」（48男C）という歌詞では、男歌手は「黄杨木梳梳簪簪」という歌い始めの句で女歌手に歌いかけている。「黄杨木（つげ）」は昔から櫛を作るのに一番上等の材料とされていて、つげの櫛はたいへん貴重なもので、こういう櫛が使える人は財産と地位のある人に決まっている。したがって、次の「貧しい僕はきちんとした服装をしていないから、あなたたちのグループに加わるのを遠慮した」という男歌手の言い訳の歌詞があることになるのである。また、女歌手の「你瞭活着四十了，活人阿么知道有了意思了」（61女）という歌に対して、男歌手は「只要牛走杠铃响，知道意思的人也广」（62男C）と答えている。「只要牛走杠铃响」という歌い始めの句の、表面上の意味は「牛が歩き出せばその首に吊した鈴が鳴る」であるが、その裏の意味は、男は自分を牛に喩えて、相手の女歌手を鈴に喩えたのである。このような句によって女歌手の前の歌詞に答えているのである。「牛即ち僕がいるからこそ鈴の君は生きがいを感じるのだ」ということになる。

## 2. 花儿の対唱の展開と慣用句・定型句（板垣俊一）

本報告書に文字化した「迭藏河河畔花儿对歌取材歌詞」全体の句数186句のうち七音（七字）句の数は58句（31%）である。また全体が66首から成っていて、その初句だけに限ってみれば、七音句が表われる数は29首（44%）と前者よりも高くなる。初句に七音句が多いのは歌い出しに慣用句が用いられることによるものであろう。また、たとえば「镰刀割了菜籽了」（52男C）と七音で歌う慣用句が、「镰刀就割了榆蓼了」（07女）と八音でも歌われていることから、七音句のほかさらに八音句まで含めると全体で92句（49.5%）となり、およそ半数になる。これを逆に言えば、この対唱例では九音以上の句が半数もあって、一句七音の基本形式にとらわれず字余りで自由に歌っているということになる。また、各首の句数も2句、3句、4句、あるいはそれ以上の例もあって一定していない。

洮岷花儿の対唱は、原則として相手に呼び掛ける慣用的な語句から始まる。いわゆる「衬詞」で、この対唱例では「远路上」「远路的怜儿」「远亲戚」「远花儿」「我的人」「尕妹子（孕心疼）」などが使われている。このうちもっとも多く使用されているのは「远亲戚」

(15回)と「我的人」(10回)である。最初に、「远路上」すなわち「遠くから来た人よ」と相手に呼びかけるのは、実際かなり広範囲から人々が集まるからである。本資料でも、真偽のほどは知り得ないが、女性は岷県と卓尼県の県境からやって来たと言っている(51女)。洮河上流の両県の境界とすれば、たぶん西寨鎮のあたりで、花儿会が行なわれていた迭蔵河から十七、八キロメートル離れたところである。遠くからやって来た見知らぬ人物と歌を交わすとき、まず「遠くから来た気掛かりな人よ」(远路的怜儿)とか、「遠くから来た歌友達よ」(远花儿)と呼び掛ける。そして対歌の進行に従って「遠くから来た親戚よ」と、親密な関係を表わす呼称に変わり、さらに歌掛けが佳境に入ると「私の人よ」(我的人)とか「可愛らしい君よ」(尕妹子)という、より親密な関係を表わす呼びかけになる。

女性が、相手を八仙の韓湘子になぞらえ、自分を林英女になぞらえよう(01女)と歌い掛けているように、この対唱は親しい関係にある男女を演じることによって始まっている。また、「嫁のいないあなた」(09女)ともあって、はじめのうち女性は相手の男性を独身者として扱い、「あなたは言い寄ってくる人とすぐに付き合う」となじったり、「どういうわけか家に帰る途中で靴が<sup>いっそく</sup>一足無くなった」(07女)と謎を掛けたりしている。次に、21女以下ではお互いの家庭状況が話題となり、ふたりとも既婚者で家庭を持っているという現実が恋の障害として歌われる。ただし22男Aのように、障害は滑稽に歌われ、決して深刻には歌われない。当事者たちが歌の掛け合いそのものを楽しんでいるとともに、聞いている周りの人々を楽しませているのである。その後ふたりは恋の障害を乗り越えるために駆け落ちする話になるが、この展開パターンは「中国甘肅省岷県花儿会調査報告2010年」<sup>(1)</sup>で報告した岷県の麻石頭における対唱例でも見られた。恋の逃避行に内モンゴルが選ばれているのもそれと同様である。そしてこの駆け落ち話も決して深刻にはならず、「なぜか急に置き去りにした家の嫁さんのことを思い出した……」(35女)と女性が男性をなじっているように笑いを含んだ展開になる。これは花儿が歌の掛け合いそれ自体を楽しむものであり、それをまた周りで聞いて楽しむためのものだからである。その点で、相手になじられたらどうはぐらかすか、といった点が聞きどころの一つにもなる。

この資料では、43男Cから別の男性の歌手が登場するので、男A・男Bと歌っていた駆け落ちの話題は途切れてしまう。男Cは「毡匠」(毛せん屋)という歌手名で地元の人々に知られている人で、相手の歌が終わるや否やすかさず返歌することができる人物であった。女性もまたほとんど間髪を入れず返歌していて、歌巧者同士の淀みない対唱となっはいる。ただし物語性は明確でない。しかし戚曉萍が述べるように、一首の韻を決める働

(1) 板垣俊一・戚曉萍・張 蠡「中国甘肅省岷県花儿会調査報告2010年」(『国際地域研究論集』第2号、2011.03)

きをする歌い始めの衬句に、前後の詩句と意味のある呼応関係をうまく持たせている点などは歌巧者と言えるだろう。現地の言語に通じた戚曉萍によれば、たとえば衬句以外でも、「牛が歩き出せばその首に吊した鈴が鳴る」(62男C)とか「帽子を被っている人も多い」(63女)などの句は隠喩的な表現なのだという。これらは恐らくこの時の歌い手の個人的な創意ではなく、花儿を歌う人々一般に共有された定型句と思われる。とくに62男Cの例などは諺ともとれる。女性が歌った、「家で飼う鳥なら死ぬほどたたいても家を出ようとはしない、野生の鳥なら丁寧に飼っても人になつかない」(29女)も現地の人に知られた諺であろうし、また女性が歌った比喩表現、「皇帝が皇位を継ぐ太子を得たように嬉しい」(19女)も、52男Cに再度歌われている。花儿の対唱は、このような共有された定型句をうまく利用することで成り立っているものと考えられる。

なお、この「毡匠」はかなり高い声で歌っていた。花儿は野外で歌うため一般に男女ともに比較的高い声で歌われるが、とりわけこの資料の「毡匠」は相手の女性の声と同程度の非常に甲高い声で歌っている。当日の会場にはソプラノで二時間でも三時間でも歌えることを自慢する四十歳代の男性もいた。しかし岷県の民俗研究者景生魁氏は、これについて否定的で、昔はそんなに高い声で花儿を歌うものではなかったと批判し、そのような変化が起こった原因は、最近の行政側開催の花儿コンテストで声の高さが評価されるようになったためだと指摘する。

#### 4 迭藏河河畔花儿对歌取材歌詞

##### 凡例

1. 取材日は2011年6月19日(旧暦5月18日)午後、取材場所は甘肅省岷県の迭藏河河畔、歌い手は中年男性2人と老年男性1人、中年女性1人であった。
2. 一人の女性に対して三人の男性が歌い掛けているので、男性側を男A、男B、男Cとして区別した。このうち高齢の男Cは花儿の雅号を「毡匠」(毛せん屋)と名のり、現地では歌掛けの巧者として知られている人物である。43番のところで後方にいた彼が対歌するように勧められて登場したため、女性の44・47番の歌詞が歌われている。なお、A・Bの二人は回族の男性の仲間であった。
3. 対唱時間は約30分。洮岷花儿のうちの南路と呼ばれる旋律で歌っている。
4. 実際の対唱歌詞に近づけるため、衬詞も( )に入れて示した。
5. 音声資料の文字化は現地方言に通じた戚曉萍が、日本語訳は張蠡が、例によってそれぞれ担当した。(日本語訳の補正は板垣が行なった。)

(漢語普通語表記)

- 01女：(远路上)  
把你如比韩湘子，<sup>(1)</sup>  
把我如比林英女，  
我俩就空背名声都胀气。
- 02男A：(远路的怜儿)  
打灯蛾儿的黄瓜瓜儿，<sup>(2)</sup>  
(黄瓜瓜儿)你是远路的朋友可是我的怜儿。
- 03男B：(我的怜儿)  
想死就可不得到一搭儿。<sup>(3)</sup>
- 04女：(远亲戚)  
打灯蛾的黄脊梁，  
你谁好了就落者谁身上。
- 05男B：(远花儿)  
你是我指甲根里的连心肉，<sup>(4)</sup>  
(连心肉)我疼得还不叫别人动，<sup>(6)</sup>  
  
别人动了我不成，  
我把他的肋巴掰两根。
- 06女：(远亲戚)  
我一阵一阵想人呢，  
肋巴就像关门呢，  
  
肠子就像拧绳呢。

(日本語訳)

- 01女：(遠くからいらした人よ)  
あなたを韓湘子になぞらえよう、  
私を林英女になぞらえよう、  
二人とも虚名ばかりで悔しい。
- 02男A：(遠くからいらした気掛かりな人よ)  
打灯蛾の黄色い足、  
(黄色い足)君は遠くからいらした友で、正に僕  
の気掛かりな人だ。
- 03男B：(僕の気掛かりな人よ)  
心中しようと思ってもなかなか一緒にいられない。
- 04女：(遠くからいらした親戚よ)  
打灯蛾の黄色い背中、  
あなたは言い寄ってくる人とすぐに付き合う。
- 05男B：(遠くからいらした友達よ)  
君は僕の心臓に繋がる指の肉のようだ、  
(心に繋がる肉)心臓に突きささるように痛いけ  
れども人には触らせない、  
人が触ったらただでは済まないぞ、  
その人の肋骨を2本も折るぞ。
- 06女：(遠くからいらした親戚よ)  
私はひっきりなしにあの人を思っている、  
木の門をぎゅっと閉めるように肋骨の骨と骨が  
締め付けられる、  
腸が縄をなうようにきりきり痛む。

(40秒ほどの中断があつてのち再び女の歌から開始。)

- 07女：(远朋友)  
镰刀就割了榆蔓了，<sup>(7)</sup>  
(榆蔓了)阿么到屋里来的时候就把一只儿鞋掉了，  
  
没有你那鞋就合窍了。<sup>(8)</sup>

- 07女：(遠くからいらした友よ)  
鎌で榆の木の皮を切って縄をなう、  
(榆蔓) どういうわけか家に帰る途中で靴が<sup>いつそく</sup>一足  
無くなった、  
取り替えた靴はあなたと一緒にいた時の靴ほど  
履き心地がよくない。

08男B：(远花儿)

叫你可把毛布底儿的鞋做呢，  
(鞋做呢)我给你杀茬犁地呢，  
给你们亲戚邻居就灭<sup>(10)</sup>气呢，  
亲戚邻居就把气灭上，  
(气灭上)你还叫我穿那就烂衣裳。

09女：(远亲戚)

我给你把袜子一双鞋两双，  
把你没婆娘的势长上。

10男B：麻杆顶下门着呢，

你给我做下一双鞋着呢，  
你到那豆子的柜里可埋着呢，  
(着呢)你还怕晚晚等我就可来着呢。

11女：我给你袜子一双鞋一双，  
把袜子连鞋齐穿上。

12男B：你给我袜子一双鞋两双，  
你给我没婆娘的势长上。

13女：你叫他有婆娘的到后站，  
没婆娘的你瞭我照看。

14男B：月亮出来就镰刀弯，  
我就是没婆娘的光棍汉，  
(光棍汉)你不就照看就叫谁照看。

15女：纽门儿跌了我缯呢，  
凉水渴了者就我灌呢。

16男B：青石崖嘛黄石崖，  
你抬上一口凉水来，  
你抬下凉水我不嫌，  
(我不嫌)唾沫的渣子可比蜜甜。

17女：(远亲戚)

你把唾沫没心咽，  
你把拌汤就连云羹儿灌。

08男B：(遠くからいらした友達よ)

丈夫な靴を作ってくれって、  
(靴を作って)僕は君の畑の刈り入れをしている、  
君の親戚、隣近所を神妙にさせる、  
親戚、隣近所を神妙にさせる、  
(神妙にさせる)ほろほろの服を着せてくれるな

09女：(遠くからいらした親戚よ)

靴下を一足、靴を二足作ってあげる、  
嫁のいないあなたを着飾らせてあげる。

10男B：麻がらで戸を閉めただけにする、

靴を一足作ってくれた、  
豆を盛る食器に埋めて隠してある、  
(埋めて隠してある)僕が夜来るだろうと見当  
つけたから。

11女：靴下を一足、靴を一足作ってあげた、  
靴下と靴を両方とも履きなさい。

12男B：靴下を一足、靴を二足作ってくれよ、  
嫁のいない僕を格好よくしてくれよ。

13女：嫁のいる人は後ろに行け、  
嫁のいない人の面倒は私が見る。

14男B：月が出て鎌のように曲がっている、  
僕こそが嫁のいない独身者だ、  
(独身者)君が面倒を見てくれなかったら、誰が  
見るというのか。

15女：ボタンが取れたらつけてあげる、  
喉が渴いたら水を流し込んでやる。

16男B：青い石の崖、黄色い石の崖、  
水を一口含んで僕にくれ、  
君が口に含んだ水を嫌だとは言わない、  
(嫌だと言わない)唾の味は蜜より甘いから。

17女：(遠くからいらした親戚よ)

人の唾を飲み込むのは美味しくないから、  
それより拌湯をスプーンいっぱい食べたらどうだ。

18男B：我把你如比甜黄酒，

我喝上就一口想两口。

19女：把你缠上就爱死了，

就像皇上得了太子了。

20男A：(尢心疼)

立轮磨的插水板，

(插水板) 你看我就来者可就你没管。

21女：(远亲戚)

我到你们大门门上站，

你们婆娘跪下填炕眼，

你到炕上打算盘。

22男A：(路远的怜儿)

我走着你们房背后，

(房背后) 听说你们男人是个拳顾手，<sup>(14)</sup>

那就把石头拾下一背斗。

23女：(远亲戚)

我们男人是好人，

养下的狗娃儿都不咬人。<sup>(15)</sup>

24男A：(尢心疼)

一把斧头儿砸柴呢，

你们男人是个刽子手，

害怕你外头惹人呢，

把我拉住砸过呢。

25女：(远亲戚)

我们男人是老实汉，

不叫我连别人然。

26男B：缠山<sup>(16)</sup>跌者倒坑呢，

你连别人然开还要小心呢，

你们男人拉住挑筋呢。

27女：前山林里雾拉雾，

后山林里扳蘑菇，

18男B：僕は君を甘酒に喩える、

一口飲めばやめられない。

19女：あなたと付き合ってから死ぬほど愛している、

皇帝が皇位を継ぐ太子を得たように嬉しい。

20男A：(可愛らしい君よ)

水車の受け板、

(受け板) 僕が目の前に来ているのに、かまってくれないじゃないか。

21女：(遠くからいらした親戚よ)

私はお宅をうかがったところ、

奥さんが地面に膝をついたままオンドルの穴に薪を入れていた、

あなたがオンドルの上で算盤を弾いているのを見た。

22男A：(遠くからいらした気掛かりな人よ)

僕は君の家の裏へ行った、

(家の裏) 旦那さんがカンフーのできる人だと聞いた。

それで背負い籠<sup>かこ</sup>いっぱい石を用意したんだ。

23女：(遠くからいらした親戚よ)

家の旦那はいい人だ、

彼が飼っている子犬だって人に噛み付くことはないよ。

24男A：(可愛らしい君よ)

斧で薪を切っている、

旦那さんは人殺しだ、

君が浮気するのを心配して、

僕を掴み止めてぶん殴った。

25女：(遠くからいらした親戚よ)

うちの旦那はおとなしい人だ、

よその男と付き合うことは許さない。

26男B：山に登る人が穴に落ちた、

ほかの男と付き合うことには気をつけろよ、

旦那さんは掴みとどめて筋をほじくるぞ。

27女：前の山の林の中は雨で霧が立ちこめている、

後ろの山の林の中は晴れているのでキノコを摘み取る、

你们婆娘是个活老虎，  
把你就像黑猫踏老鼠。  
28男B：把我如比野鹊呢，  
飞着你们牛槽呢，  
你们公公就还叫抓牢呢，  
你们婆婆还要拔毛呢。  
29女：打死的家雀儿不出门，  
  
养死的野雀儿不恋人。  
30男B：葡萄开花一骨抓，  
你就杀了叫他一挂杀，  
杀了就埋着一疙瘩。  
31女：（远亲戚）  
豁住人头手里提，  
豁出心肺肝花摆了席。  
32男B：黄尖柳<sup>(18)</sup>的糜马桩，  
拉你还我把命舍上，  
你舍身子我舍命，  
我俩个非离两舍不中应。<sup>(19)</sup>  
  
33女：（远亲戚）  
你走前头我跟上，  
霎叫就别人打冲腔。<sup>(20)</sup>  
34男B：我把你引着西固的两河口，  
你卖甜醅儿我卖酒，<sup>(21)</sup>  
我俩个把穷难的日子推上走，  
走着西固城里了，  
瞭着柿子红的了，  
（红的了）才知道人想人的了。  
35女：（远亲戚）  
到你话上原来来了，  
你走着西固城里了，  
瞭着辣椒红的了，  
你阿么记起你你们婆娘的屋里了，  
  
（屋里了）你阿么把我原哄着不去了。

お宅の嫁さんはじゃじゃ馬だ、  
黒猫が鼠を扱うようにあなたを尻に敷く。  
28男B：僕はかささぎのようで、  
君の家の飼葉桶を飛び回る、  
舅<sup>しゅうと</sup>さんは捕まえろと言ひ、  
姑<sup>しゅうとめ</sup>さんは羽を引き抜けと人に言い付ける。  
29女：家で飼う鳥なら死ぬほどたたいても家を出  
ようとはしない、  
野生の鳥なら丁寧<sup>ぶさ</sup>に飼っても人になつかない。  
30男B：葡萄の花が咲いて房<sup>ぶさ</sup>になっている、  
旦那さんは私たち二人を殺す気なら殺せばいい、  
殺されたら同じ場所に合葬されるまでのことだ。  
31女：（遠くからいらした親戚よ）  
頭をぶらさげて、  
心臓、肺臓、肝臓を捨てて死ぬ覚悟をしろ。  
32男B：黄尖柳で作られた馬を繋ぐ杭、  
君と付き合うのは命がけだ、  
君は身を捨て僕は命を捨てる、  
二人はこういう捨て身になる覚悟でないとやっ  
ていけないんだ。  
33女：（遠くからいらした親戚よ）  
あなたは先に、私はすぐその後<sup>(20)</sup>に続いてゆく、  
二人の仲を人に裂かせはしない。  
34男B：僕は君を西固の両河口に連れて行く、  
君は甘酒を、僕はお酒を売る、  
二人は貧しい日々を我慢して過ごす、  
西固の市内を回って、  
柿が赤く実るのを見た、  
（赤くなった）急に家族が恋しくなった。  
35女：（遠くからいらした親戚よ）  
あなたの話の続きを言<sup>(21)</sup>ってあげる、  
あなたは西固の市内を回って、  
唐辛子が赤くなったのを見たら、  
なぜか急に置き去りにした家の嫁さんのことを  
思い出した。  
（家にいた）それで私をごまかしてどうしてもそ  
こに居ようとし<sup>(22)</sup>ないんだ。

36男B：不是把你引上蒙古下，  
人问了就说哥送妹子坐娘家。

37女：有人了我们两个就离开地走，  
没有人了我们手托手。

38男A：(尢心疼儿)  
豹花儿马的白鼻梁，  
我把你引上理发馆里烫多脑，  
皮鞋擦得真个亮，  
(真个亮) 看把大干部家婆娘像不像。

39女：(远亲戚)  
我拉是要拉老板呢，  
老板手里那可有点呢。

40女：(远亲戚)  
你说下吃穿你管呢，  
我们阿么只要了个鞋面你可红脸呢。

41男B：棉花还就搭着席架上，  
你就出来站者塄坎上，  
只要人把人看上，  
(人看上) 不在银钱粮担上。

42女：(远亲戚)  
我把草帽曲成两檐水，<sup>(23)</sup>  
把你光棍馋的还淌涎水。

43男C：(明白的人)  
我把这水地小豆儿透球过，  
(我的人) 把你好比是一朵牡丹花，  
杆杆拧住撇不下，  
撇下就是我的好冤家。

44女：(叫毡的匠)  
锡铁倒了一面锣，  
把你唱下啥时没听着。<sup>(24)</sup>

45男C：(我的人)  
白杨做了轮船了，  
你心疼儿得像天上仙女下凡了，

36男B：君を内<sup>うち</sup>モンゴルへ連れていこうと思う、  
人に聞かれたら兄の僕が妹の帰省に付き添うと  
いう。

37女：他人が近くにいたら二人は別れて歩く、  
いなかったら手をつないで歩く。

38男A：(可愛らしい君よ)  
豹柄馬の白い鼻、  
君をパーマをかけさせに美容院へ連れて行く、  
革靴をびかびか磨く、  
(びかびか) 地位の高い幹部の嫁さんみたいじゃ  
ないか。

39女：(遠くからいらした親戚よ)  
付き合うならやっぱりボスのほうがいいよ、  
ボスはお金があるからさ。

40女：(遠くからいらした親戚よ)  
衣食はあなたに任せようと約束したではないか、  
なんで靴の表がほしいって言ったらあなたは怒  
るんだ。

41男B：棉は蓆の干し棚に置いてある、  
君は出てきて畦の上に立っている、  
その人さえ気に入れば、  
(人が気に入れば) お金なんか問題にならない。

42女：(遠くからいらした親戚よ)  
顔が見えないように私は麦藁帽子のつばを下げる、  
独身者のあなたが私の顔を見たくてよだれを垂  
らす。

43男C：(物分りのいい人よ)  
僕はエンドウ豆の畑の草をきれいに刈り取る、  
(僕の人よ) 君を牡丹の花に喩える、  
牡丹の茎を手を持つとなかなか離せない、  
手放したら貴方の怨みを買うことになる。

44女：(毛せん屋さんよ)  
アルミニウムでドラを作った、  
あなたがいつから歌い初めたか気づかなかった。

45男C：(僕の人よ)  
ポプラで船を作った、  
君は可愛くて舞い下りる天上の仙女さまのようだ、

- 你瞭中瞭不中我缠了。
- 46男C：(我的人)  
你的膝裤儿<sup>(25)</sup>没系好，  
你那前门的金牙偷着笑。
- 47女：(叫毡的匠)  
镢头挖了柴胡了，  
你来得早吗才可来了？
- 48男C：(尕妹子)  
黄杨木梳梳簪簪，  
将是人穷没打扮，  
来得早着到你们伙儿里我没敢钻  
(没敢钻) 害怕给你丧面。
- 49女：(叫毡的匠)，  
我拉人没到身上看，  
(身上看) 你穿得单可是个庄稼汉
- 50男C：(我的人)  
提的杆杆儿捣杏儿呢，  
我问你到阿搭儿呢，  
叫你给我今几个说个方向儿呢。
- 51女：(我的人)  
我到岷卓两县呢，  
脚踏洮河两面呢。
- 52男C：(尕妹子)  
镰刀割了菜籽了，  
我坐着你的跟呢，  
把我爱死了，  
像皇上得了太子了。
- 53女：(远亲戚)  
三根儿马尾绾网呢，  
我想你是实想呢，  
你想我还怕是一句一句给我丢谎呢。
- 54男C：(我的人)  
你把斧头拿来把我上腔停剥开，  
你瞭我想下人的来，
- 君が気に入るかどうかに関係なく僕は君に付き纏う。
- 46男C：(僕の人よ)  
君のゲートルがよく巻かれていない、  
君の金の前歯がこっそり笑っているように見える。
- 47女：(毛せん屋さんよ)  
鍬で柴胡を掘った、  
だいぶ前に来たのかそれとも今来たばかりなのか。
- 48男C：(可愛らしい君よ)  
黄楊<sup>つげ</sup>の櫛で髪を梳かす、  
貧しい僕は身ごしらえしていないから、  
早く来たけど君のグループに加わるのを遠慮した、  
(加わるのを遠慮した) 君に恥をかかせるのが心配だから。
- 49女：(毛せん屋さんよ)  
私は歌を掛け合う人の身なりに気づいていない、  
(身なりに気づいていない) あなたの格好は普通だけれども、勤勉で正直な農民に見える。
- 50男C：(僕の人よ)  
長い棒を<sup>あんず</sup>提げて杏を取る、  
君はどこに住んでいるのか、  
だいたいの方角を教えてください。
- 51女：(私の人よ)  
私は岷県と卓尼両県の境目に住んでいる。  
洮河の兩岸にまたがった所だ。
- 52男C：(可愛らしい君よ)  
鎌で菜の花を刈った、  
僕は君の直ぐ目の前に座って、  
嬉しくてたまらないんだ、  
皇帝が太子を得たようだ。
- 53女：(遠くからいらした親戚よ)  
馬の尻尾三本で網を作る気か、  
私は本気であなたのことを好きだ、  
私を好きだというあなたの言葉は嘘八百だろう。
- 54男C：(僕の人よ)  
斧を持ってきなさい、それで僕の上半身を切ろう、  
君を思う僕の気持を見なさい、

心肺肝花黄的来，  
把心摆着当桌子，  
把肝花就摆着四角子。

55女：(我的人)

我想吃人肉给你喘，  
到你的胛骨头儿上削一片。

56男C：(孕妹子)

我瞭是你死了变个蛇蚤呢，  
趴着我的脊背呢，  
还怕要吃我的心肺呢。

57女：原打回是原来，

我死了变蛇蚤呢，  
到你的浑身上下跳到呢。

58男C：(我的人)

死了霎喝迷魂酒<sup>(29)</sup>，  
阎王门前我俩个手托手。

59女：(我的人)

我们死了霎喝迷魂汤，

阎王门上重商量<sup>(30)</sup>，  
商量寻上一个娘<sup>(31)</sup>。

60男C：(娃的娘娘)

你的人品那是好人样，  
心想连你同庄上，  
不枉我到阳世来一场。

61女：(叫毡的匠)

你瞭活着四十了，  
活人阿么知道有了意思了。

62男C：(我的人)

只要牛走杠铃响<sup>(32)</sup>，  
知道意思的人也广。

63女：(远亲戚)，

到你话上原来，  
只要牛走杠铃响，  
戴帽帽儿的人也广<sup>(33)</sup>。

64男C：(心病的孕妹子)

镰刀割了莽草了，

心臓も肺臓も肝臓も病気にかかった、  
僕のハートをテーブルの真中に、  
そして肝臓を四つの隅に置く。

55女：(私の人よ)

人間の肉を食べなければあなたに言う、  
あなたの肩胛骨<sup>けんこうこつ</sup>からひと切れを削る。

56男C：(可愛らしい君よ)

君は死んだら蚤に生まれ変わる、  
僕の背中にへばりつく、  
僕の心臓と肺臓を食うだろう。

57女：あなたの話に付け加えよう、

私は死んだら蚤に生まれ変わる、  
あなたの体中を跳ね回る。

58男C：(僕の人よ)

死んだら魂を惑わす薬湯を飲んではいけない、  
閻魔の庁で二人は手をつなぐ。

59女：(私の人よ)

私たちは死んだら絶対魂を惑わす薬湯を飲まないように約束する、  
閻魔大王と相談してみる、  
同じ母親のところに生まれ変わる。

60男C：(子供のおばさんよ)

君の人柄は立派だ、  
君と同じ村に住んでいたらどんなにいいだろう、  
僕がこの世で生きるのも無駄ではない。

61女：(毛せん屋さんよ)

私はもう四十歳になった  
四十歳になってはじめて生き甲斐がわかったんだ。

62男C：(僕の人よ)

牛が歩き出せばその首に吊した鈴が鳴る、  
生き甲斐がわかる人が多いだろう。

63女：(遠くからいらした親戚よ)

あなたのおっしゃった通りだ、  
牛が歩き出せばその首に吊した鈴が鳴る、  
帽子を被っている人も多い。

64男C：(恋わずらいをさせるほど可愛らしい君よ)

鎌で蕎草を刈った、

我把你越瞭越好了，  
不吃就不喝可给瞭饱了。

君を見れば見るほど好きになる、  
食べなくても飲まなくても君を見るだけでお腹  
一杯になる。

(ここで女性は返歌をやめた。40秒ほどの中断のあと男Cが以下2首を歌って終了。)

65男C：(尕妹子)  
你瞭阳婆落尽了，  
我们人前就都把心死了

65男C：(可愛らしい君よ)  
そろそろ日が沈むんだ  
残念ながら人前で花儿を掛け合うのはやめるし  
かない。

66男C：(我的人)  
锡铁倒了白酒壶，  
我将是连你人生面不熟，  
(面不熟) 熟熟我给你丢洋壶。

66男C：(僕の人よ)  
アルミニウム製の徳利、  
君と知り合ったばかりなものであまり親しくない、  
(親しくない) 親しかったらこの徳利をあげる。

## 注

- (1) 韩湘子：中国の民間神話に出てくる人物である。韓湘子は八仙人の一人で、仙人になる前に林英女と夫婦だった。
- (2) 打灯蛾儿：方言での呼びかたである。体が大きい蛾で、羽を畳む力で蠟燭や石油ランプの火を消せることからこういう名前が付けられた。打灯蛾を歌った例に「打灯的蛾蛾上天了」(甘肃人民出版社『中国花儿曲令全集』2007所引『西吉民歌選』)などの句もある。
- (3) これは男Bが仲間の男Aの歌詞につけ加えた句である。
- (4) 十本の指のすべてが心臓に繋がっているという意味の「十指連心」をふまえた表現。この句は愛情を歌う定型句。
- (5) 疼：方言での発音はtóu。
- (6) 劲：方言での発音はdóu。
- (7) 榆蓼：方言での発音はrúyào。榆の木の皮でなった縄である。
- (8) 以上二句の裏の意味：あなたと付き合っているうちに、わけのわからない原因で別れた。その後ほかの人と付き合ってみたけれど、あなたとの関係ほどうまく釣り合っていない。
- (9) 毛布底：靴の底を作るのに使われる布の種類で、普通の布より丈夫である。
- (10) 杀茬：方言の言い方で、農作物の刈り入れをする意。
- (11) 灭气：方言の言い方で、君を見下して馬鹿にしている親戚や隣近所の傲慢な態度を挫くという意味。
- (12) 还怕：方言での発音はhàba。推測する。
- (13) 拌汤：食べ物の名前である。小麦粉で作ったスープのようなものである。
- (14) 拳顾手：方言の言い方で、武術に練達した人の意。
- (15) 咬：方言での発音はniǎo。
- (16) 缠山：方言の言い方で、山を登ること。
- (17) 野鹊：かささぎのこと。
- (18) 黄尖柳：植物名。
- (19) 非离两舍：方言の言い方で、「そうでないと」という意味。

- (20) 打冲腔：替玉を使う。二人の仲を悪くするという裏の意味がある。
- (21) 両河口：今の宕昌县にある地名。西固は宕昌县・舟曲県一帯の歴史上の行政区名。
- (22) 甜醅：回族の伝統的な軽食。燕麦に麴をませ、醱酵させて作る。
- (23) 两檐水：建物の屋根が「人」字形であること。麦藁帽を两檐水に曲げるとするのは麦藁帽子のつばを下げて顔が見えないようにすること。
- (24) 二句の裏の意味：アルミニウムで作られたドラは脆いので、力強く鳴らすことができない。銅で作られたものと比べてよく響かない。だから貴方がいつ歌の掛け合いに加わったのか気がつかなかったという次の句がある。
- (25) 膝裤儿：明の時代の服飾でゲートルのことである。
- (26) 柴胡：植物名。薬草。
- (27) 阿搭儿：方言の言い方で、「どこ」という意味。
- (28) 三根儿马尾缩网呢：この歌い出しの句は後ろの二句と呼応している。馬の尻尾三本で網を作るなんてできるものか。だから貴方の口にした「好きだ」なんて言葉は心にもない嘘に決まっている。
- (29) 迷魂酒：迷魂湯とも言う。仏教で人が死んで冥界にゆくと、魂を惑わす薬湯を飲まされて生前のことをみな忘れてしまうと俗に言われる。
- (30) 重：方言での発音はcòng。
- (31) 寻：方言での発音はxíng。
- (32) 只要牛走杠铃响：男は自分を牛に喩えて、相手の女歌手を鈴に喩える。この句をもって女歌手の前の歌詞に答える。牛即ち僕がいるからこそ鈴の君は生きがいを感じるのだ。
- (33) 戴帽帽儿的人也广：男Cはそのとき帽子を被っていた。この句の裏の意味はあなたのような人は多い、あなたは唯一の人ではない。
- (34) 越：方言での発音はjue。

付記：本調査報告書の標記3名による作業分担は次のようになっている。全体の調査計画の立案、報告書の執筆監修は板垣俊一が行なった。また、現地録音の音源から歌詞を文字化する作業（および第3章の一部）は戚曉萍が担当し、採録歌詞等の日本語訳は張蠡が担当した。歌詞の注記は戚曉萍と張蠡が協議しながら原案を作成し、板垣俊一が調整を行なった。